

CHIZAI LETTER



発行日 2005 / 11 / 4



AUTUMN

© kero916

学術研究部研究協力課長挨拶

CONTENTS	
学術研究部 研究協力課長挨拶	1
発明と「私」	1
知的財産本部 秋のスケジュール	2
イノベーション・ジャパン2005 レポート	2
山口大学知的財産事業 トピックス(1)	3
山口大学知的財産事業 トピックス(2)	4
400字で斬る！知財豆知識	4



山口大学とコクヨが共同開発した
研究ノートが大好評発売中!!!



発明と「私」

学生のころから理学部で基礎研究に従事してきた私が特許に大きく関わったのは、ウイスコンシン大学での博士研究員時代でした。指導を受けた教授は毎年の特許申請数が多く、居室には表彰状が多数飾られていたのを覚えています。私の従事したプロジェクトでも特許を申請することになり、キャンパス内でも見晴らしの最も素晴らしいオフィスで研究内容を数回説明し、書類を何度も修正しながら共同作業で書き上げたことがあります。

しかし、帰国後は特許を意識することもなく、研究成果は国際的に評価の高い論文誌に発表するのを第一としてきました。もともと学生のころからそのような教育を受けていたので、アメリカでの経験は別世界のこととっていたものです。

それが、一昨年知的財産に関する委員になり委員会に出席するたびに、アメリカと同じようになってきたのかなと感じました。しかし、忙しい研究生生活の中では、自分でしっかり意識しないと特許申請へと思考が向かわないのが現状です。研究成果は論文にするのを第一としてきた教育がしっかり身につけていることを思うと、育ってきた環境による影響の大きさを感じます。

そして、私たちが次世代の職業人や研究者を育てている教育者でもあることを考えると、今の時代にあった教育をするためにも、自分自身が特許をもっと意識する必要があると感じています。

(理学部 化学・地球科学科 化学講座 教授 山崎 鈴子)

本年4月から、山口大学研究協力課長を拝命致しました、川満と申します。どうぞよろしくお願い致します。



出身は沖縄県八重山郡竹富町で、沖縄本島に続いて二番目に大きな島(西表島:山猫で有名な島)です。西表島の照会は <http://www.mmjp.or.jp/iriomote/> を是非ご覧下さい。

趣味は、ゴルフ、スポーツ観戦(何でも)、温泉巡り等です。好きな言葉は、「自然体」です。

琉球大学で長年勤務し、平成13年4月から、佐世保工業高等専門学校会計課長、平成15年1月から、佐賀大学国際研究協力課長、そして本年4月から、当職でございます。

山口大学知的財産本部と研究協力課の役割について、若干述べさせていただきます。本学の知的財産本部は、平成15年4月1日に学内措置で設置され、同年8月には、文科省より「大学知的財産本部整備事業(5ケ年間)」の実施機関(34機関)として採択され、本年7月には本事業の効率的・効果的な実施のため、2ケ年経過時点における事業計画の達成度等について、文科省により中間評価が行われ、3段階評価(A、B、C)の結果、Aを獲得した次第です。

これも知的財産本部のスタッフを始め、産学公連携・創業支援機構並びに山口ティール・エル・オーが緊密に連携して、山口大学の知的創生サイクルを確立している証拠だと思います。

そこで研究協力課は、「知財・産学公連携支援係」を中心に、少ないスタッフではありますが、連携を密にしてやっていきたいと思っています。

それから、本整備事業終了後の自立化に向けて、他大学の参考となるような取組を構築していきたいと思っていますので、ご協力の程よろしく申し上げます。

(学術研究部 研究協力課長 川満 信男)





【9月と10月の主な出来事】

- ・9/1 知財セミナー講演 (久留米大学)
- ・9/2 知財セミナー講演 (宇部テクノエンジ)
- ・9/6,7 学生インターンシップへの知財教育 (知財本部)
- ・9/26 文科省プログラム「契約のあり方」第2回委員会 (東京大学)
- ・9/27~29 イノベーション・ジャパン2005出展 (東京国際フォーラム)
- ・10/14 文科省プログラム「21世紀型産学連携手法」第1回委員会 (山口大学)
- ・10/18 知的財産本部運営委員会
- ・10/20 九州産業技術センター向け知財セミナー講演 (大分大学)

【10月と11月の主な予定】

- ・10/27 大学技術移転協議会九州地区懇談会 (北九州)
- ・10/28 全国の産学連携関係者への知財セミナー講演 (山口大学)
- ・11/8,15,22 MOTへ知財講義 (常盤キャンパス)
- ・11/11 経産省主催知的財産シンポジウム講演 (広島)
- ・11/18 文科省プログラム「契約のあり方」第3回委員会 (東北大学)
- ・11/22 知的財産本部運営委員会



Innovation Japan 2005 Report

9/27~29の3日間、経産省、文科省の共催により、東京国際フォーラムでイノベーション・ジャパン2005が開催され、山口大学関係では、VBLの藤井先生(出展責任者)にお世話を頂き、地域共同研究開発センター、知的財産本部、山口TLOが共同で4つのブースで出展を行いました。

イノベーション・ジャパン2005は、大学の研究によって生まれた最新の技術シーズを一同に集め、産業界とのマッチングを図る目的で行われ、産学公連携への関心の高さを反映して、来場者は3日間で35,866人に上りました。

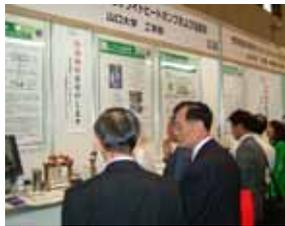
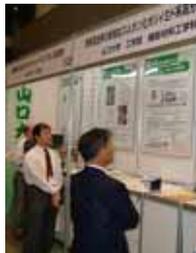
会場に併設の講演会では、文科省フォーラム「大学知的財産本部成果還元祭(9/28)」の中で、山口大学佐田教授が、山口大学が取り組んでいる知財活動について講演し、後日(10/7)、山口大学とココヨが共同開発した研究ノートについての関連記事が、日刊工業新聞に掲載されました。

また、内閣官房知的財産戦略推進事務局荒井事務局長が「知的財産と産学官連携(9/29)」の講演の中で、山口大学の知財戦略、取り組みについて詳しく紹介され、後日(10/7)、関連記事が、内閣官房知的財産戦略推進事務局のホームページ(<http://www.ipr.go.jp/hitokoto23.html>)に掲載されました。

知的財産本部の展示ブースでは、知財活動状況、研究ノート、知財教本、特許情報検索インストラクター制度等について、サンプル、パネルで紹介しました。

上記2つの講演のおかげで、各講演終了後にはブースは黒山になり、特に、研究ノートについての質問、問合せが相次ぎました。後日、多くの来場者から、いろいろな研究ノートを調べてみて一番良いと評価頂き、それぞれ大口の注文に繋がりました。今後広く普及するものと思われます。

他のブースを代表して、山口TLOの藤本さんと殿岡さんに出展の感想を頂きました。



山口大学研究室の2つの展示ブースでは、「燃料電池用の新規なスルホン化ポリイミド系高分子電解質膜」(工学部岡本先生・田中先生・山田先生)、「ヒートポンプ用吸着剤並びにこれを用いたヒートポンプ」(工学部溝田先生)についてパネルなどを用いて紹介しました。

なんと343人の方がブースを訪れてくれました。それぞれの技術に対して来場者からの評価が高く、中には専門的な内容を先生と熱心に議論している場面も多々ありました。また、予想以上に技術紹介パンフレットの要望があり、2日目にはあわてて印刷屋を探してコピーするというハプニングもありました。

共同研究の前段階まで進んでいる企業も数件あり、早速成果が出てきています。他にも今後ぜひ一緒に研究を取り組みたいという声があり、このたびの展示会は大変有意義であったと思います。

((有)山口ティー・エル・オー 藤本 昌平)



山口TLOの展示ブースでは、農学部・古賀先生の発明「新規バイオ農薬としてのキチナーゼ」、教育学部・岡村先生の発明「書道用学習装置」を中心に、山口大学の技術シーズについてサンプル、パネル等を用いて紹介しました。

本展示会の総来場者数が昨年を上回り、産学公連携の関心の高さを実感しました。

フェア会場では、山口大学関係の4ブースが「大学ゾーン」と「知財・TLOゾーン」に分かれてしまいましたが、お揃いのほっぴとのぼりで山口大学を大いにアピールしました。山口TLOからはNEDOフェロー3名を含む総勢6名が参加し、山口大学と一体で技術紹介等を行いました。

今後も特許流通フェアをはじめ多数のフェアに参加し、産学公の架け橋となるような活動を行っていききたいと思います。

((有)山口ティー・エル・オー 殿岡 裕樹)

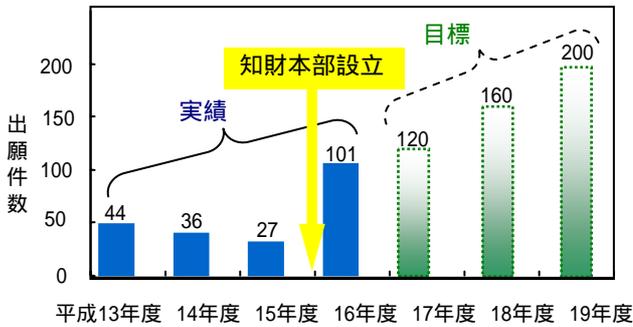




山口大学知的財産本部が本格的に活動を開始して丸2年が経ちました。その間、関係各位を始め皆様方のご協力を頂きまして、山口大学は知的財産事業において、先進的な大学として、他大学の参考となるような取組を行っているとの評価を文科省から頂きました。

これまで取組んで参りました山口大学知的財産事業のトピックスの主なものについて、2頁に亘りご紹介させていただきますので、どうぞご覧下さい。今後とも皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。

1. 出願件数



大学初

3. 知財教本 (山口大学で出版)



大学初

4. 研究ノート (山口大学で開発)



2. 特許庁と山口大学が専用回線で結ばれる

(特許庁内での出願・登録・年金情報、公開技術情報等の全ての情報がリアルタイムで)

知財本部、TLOに設置し学内及び地域企業へのサービスに

大学初



5. 包括連携企業等への出張講義

(包括連携先: 宇部興産、トクヤマ徳山製造所、山口銀行、宇部高専、宇部市)

「知的財産を有効に活用するために」
山口大学 佐田洋一郎教授
講演会開催



6. 研究協会会員、TLO会員企業への会員サービスセミナー、相談会開催

(下はセミナー後の山口大学関係スタッフの紹介風景)



7. 特許情報検索インストラクター養成

大学初



新インストラクターの皆さん(常盤地区)
H16年度23名、H17年度39名認定





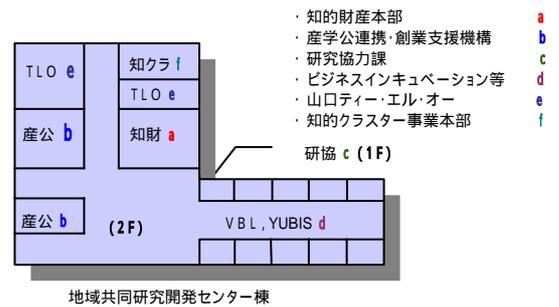
山口大学知的財産事業トピックス (2)



8. 特許なんでも相談室開設
(発明発掘、出願、契約等の相談)



9. 有機的連携体制の取れる近接配置



10. 西日本知的財産大学間連絡会議の自主開催
(平成16年度開催、9大学参加)
平成17年度は文科省の「大学知財戦略研修会」
事業として認定された



11. 山口大学独自データベースの構築に着手
(平成17年末リリース)



日経産業新聞二〇〇四(平成一六)年四月一日にも掲載

大学初

12. 大学知的財産整備事業についての文科省の
中間評価結果とコメント (H17.7.15)

機関名	評価	コメント
山口大学	A	専門人材を活用し、着実に体制整備を進めているとともに、学生を活用した情報検索インストラクター、知財教本の出版、研究ノートの配布などの地道な活動により実績を上げていることは評価できる。また、出願経費の削減にも努めている。今後とも、先進的な大学として、これまで培ったノウハウを他大学に提供することを期待するとともに、市場性等を踏まえた出願件数の絞込みなど事業終了後の自立化に向け、他大学の参考となるような取組に期待している。



400字で斬る! 知財豆知識

【情報提供】

情報提供とは、その名前の通り、他人の出願特許の権利化を阻止するため、又は特許が無効である可能性を知らせるために、特許庁に情報を提供することで、誰でも行うことができます。実際には、刊行物など(例えば、学会の予稿集、製品カタログ、操作マニュアル、新聞、雑誌、辞典など。ビデオテープやCD-ROMは該当しません)を特許庁に提出することにより行います。権利化された後も情報提供を行うことができるのは、特許権者への権利行使についての牽制、不要な紛争防止等の観点からです。また、無効審判だと審判請求料が必要です、特許権者からの反論を受けたりして労力もかかります。情報提供は、無効審判と異なり費用はかかりません(郵送料は必要ですが)。また、匿名で行うこともできますので特許出願人との関係悪化の心配もありません。特許を出願する側としては、逆に他人から情報提供されないように、しっかりと先行文献調査を行うことが大事です!

((有)山口ティー・エル・オー 李 鎔環)



知的財産本部はあなたの
発明を守る支援隊です

編集局長

佐田 洋一郎

監修・編集長

加納 好昭

企画・構成・編集

酒井 由美子

発行所・お問い合わせ

山口大学知的財産本部

〒755-8611 山口県宇部市常盤台2-16-1

TEL (0836) 85-9966 FAX (0836) 85-9967

E-mail chizai@yamaguchi-u.ac.jp

ホームページ http://www.chizai.yamaguchi-u.ac.jp